

# 地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 464 件

2014 年 7 月



## こども医療センターにおける外科系診療科の役割

副院長兼肢体不自由児施設長 兼整形外科部長

町田 治郎

平成 26 年 4 月に副院長兼肢体不自由児施設長を拝命いたしました町田治郎と申します。また従来役職である整形外科部長も兼任しております。こども医療センターは確かに小児科中心の病院ですが、外科系診療科の役割も重要です。整形外科でいえば、昔は乳児の股関節脱臼などは市中病院でも治療を行っていました。しかし、こどもが少なくなり、リーメンビュージェル装具を使ったことがない整形外科医も増え、また親御さんでもできる限り経験の多い病院を望む傾向が強くなってきた結果、当センターに紹介されることが多くなりました。またインターネットの普及により、県外の患者さんが受診したり、逆に神奈川県の方なのに関西で治療を受けたりする方などもでてきました。このような傾向はどの外科系にもみられることと思います。幸いなことに特殊な疾患の患者さんが増えれば、当然その疾患に対する手術もうまくなり、術後も良好な状態となります。もちろん難しい疾患は誰が治療しても良好な状態にならないことはあります。しかし、これ以上の治療はできないという自信を持つこともできます。外科系の治療を支えてくれているのは、麻酔科はもちろんのこと、他の診療科のサポートなしにはありえません。手術が安心してできるのは、術前後の管理を小児科の先生達がいねいに診てくださっているおかげです。こども医療センターの良い点は、これだけ大きい病院でありながら各診療科同志の垣根が低く、相談がしやすいところにあります。また整形外科は肢体不自由児施設を持っていますので、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、側弯症の治療および創外固定による変形矯正や延長が学校に通い、リハビリを行いながら理想的な環境で行えます。外科系診療科もこども医療センターの宝のひとつだと思います。これからもよろしくお願いいたします。



## 手術当日入院の取り組み “It doesn't make sense!”からの出発

泌尿器科部長 山崎 雄一郎

こども医療センターでは 2011 年 10 月より「手術当日入院」に取り組んできました。この取り組みは泌尿器科と歯科口腔外科で試みとしてはじまり、この 2 年半で耳鼻科、眼科、形成外科と広がってきております。いまや泌尿器科では年間手術約 400 件のうち 80%以上が手術の当日に入院しています。今回はこの取り組みがどのようにして始まり、実際ご家族やお子さんがどのように対応し、現在どんな流れになっているのかを現場の旗振り役の一人であった立場からお伝えします。

私がこども医療センターに赴任したのが 2003 年の秋です。年間手術件数は約 200 件でしたが、泌尿器科の手術を受けるほとんどすべての患者さんは手術前日の朝 9 時過ぎに入院していました。翌日の手術まで 24 時間以上あります。もちろんその間に病棟看護師だけでなく麻酔科医師や手術室看護師の術前訪問など必要な診察や処置が行われます。しかしほかに小さな兄弟がいるご両親からは「なるべく入院を短くしたい」「翌日の手術ならせめて午後の入院ではダメなのか」といった声が少なからずありました。またはじめて親と離れて一晩過ごすお子さんの中には病棟の看護師がおんぶしてあやし続けても、泣きはらして朝を迎えるお子さんもいました。こどもも看護師も消耗しています。入院したときに元気で熱もなかったお子さんが翌朝に高熱がでて手術中止になったりすると、思わず泣き疲れて脱水になったのではないかなどと勘ぐったこともありました。さらに火曜日手術のお子さんの場合は月曜日が祝日だと、入院事務手続きが前の週の金曜日になってしまいます。週末は入院した上で外泊するという不自然な状況。こんなことはおかしい。私にいわせれば “It doesn't make sense!”

手術室入り口



これを打開したい。麻酔科、手術室、病棟、外来に話を持ち込み、入院をマネジメントする地域医療連携室にチームを組んでもらって手術当日入院をなかば強引に推進しました。こども医療センターでは午前の手術は朝 8 時入室します。朝早く患者さんがきても入院受付は開いていない、病棟も入院患児の手術出しで手一杯、どこで誰がお子さんの確認をするのか問題は山積みでした。

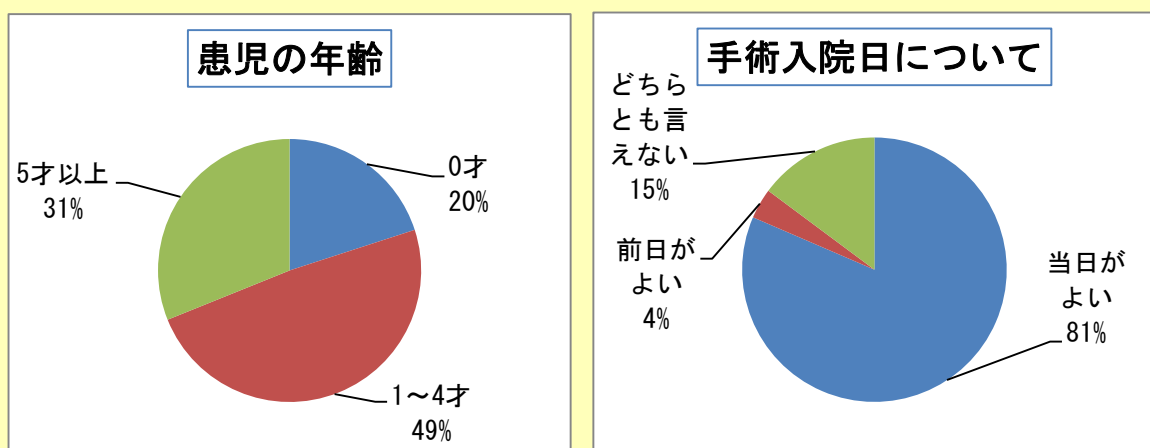


手術室前のホワイエに簡易診察室を作成し、午前手術の患者さんは朝 7 時 30 分に手術室前にきてもらい、午後の患者さんは午前中に病棟に入院する 2 パート制にしました。一番心配だった手術前の経口摂取の時間制限も麻酔科と看護師の連携でご家族の十分な理解が得られました。もちろん手術当日入院のためには前もって外来での麻酔科診察と術前検査が必要です。しかし開始後 1 年で行った患者アンケート

(図) からはこの制度が多くのお客様に受け入れられていることを実感出来ました。現在まで安全にやってこられたポイントは何か？それはこども医療センターの麻酔科をはじめとするすべての関連部署が「出来ない」ではなく「出来るように」と丁寧に制度作りをおこなってきたことにつきますと感じています。



図：2012 年実施、当日入院に関する患者ご家族アンケート（回答数 54）



## 神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

### 1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

### 2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませます。

### 3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行うとともに、積極的に臨床研究に取り組みます。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

## 神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

### 第36回 循環器連携カンファレンス

☆ 日時：平成26年8月1日(金)19:00~21:00

☆ 場所：当センター本館2階講堂

☆ お問合せ：地域医療連携室

※ 詳細はホームページに掲載予定です

### 第61回 NST 勉強会

☆ 日時：平成26年9月12日(金)18:00~19:00

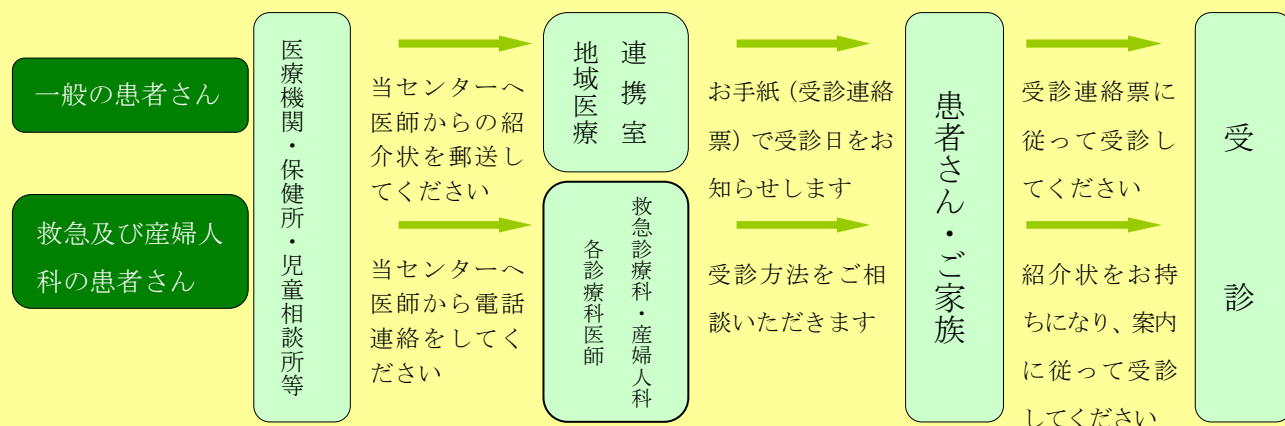
☆ 場所：当センター本館2階講堂

☆ お問合せ：地域医療連携室

※ 詳細はホームページに掲載予定です

## 【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状の添付資料(画像やフィルム等)も紹介状と併せて事前にお送りください。

※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933

<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/kodomo/>

